

公園の裏口を明るくする花壇

【講習開催日】 令和5年10月26日

【場所】 しらゆり公園（泉区）

【現状と課題】

- ・公園の裏口なので、人通りが少なく少し寂しい空間になっている。
- ・公園を訪れる子どもたちのためにも明るい空間にしたい。

【花壇づくりの方針】

- ・植物の背丈に変化を出し、立体的に楽しめる花壇とする。
- ・多年草や宿根草を中心とし、季節の花も楽しめる花壇とする。
- ・ウォーキングや散歩を訪れる園児たちに安らぎを与える花壇とする。
- ・公園裏口のシンボルとなるメインツリー（中木）のある花壇とする。

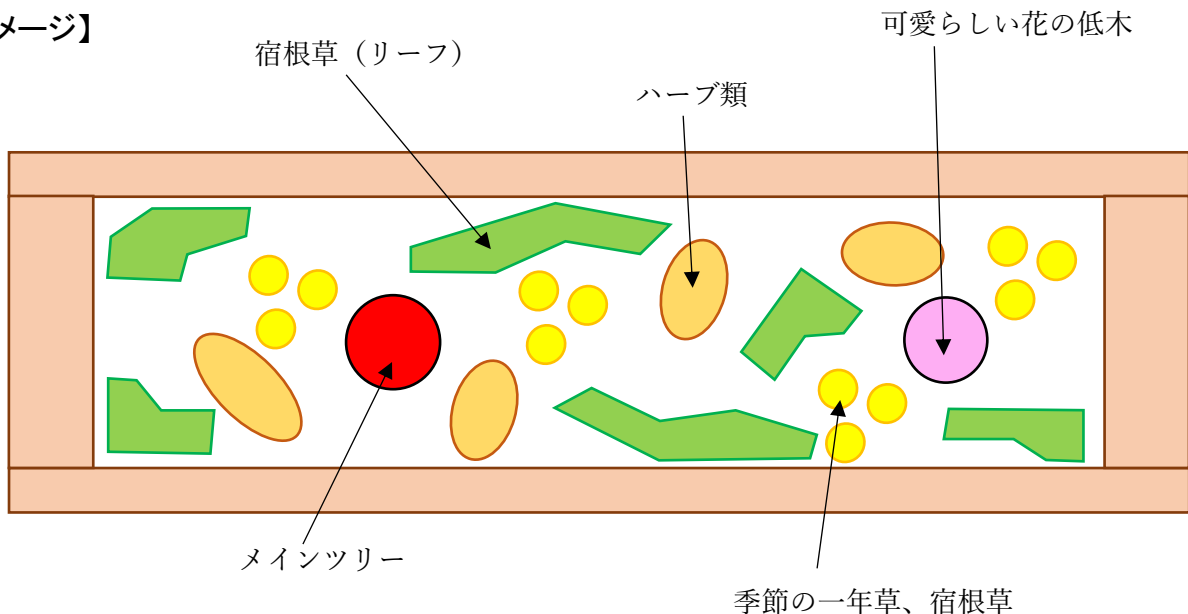
【植物を選ぶポイント】

- ・子供たちが安心できる明るい空間になるような花色の植物を植える。
- ・花が無い時期も楽しめるように、カラーリーフの宿根草を植える。
- ・爽やかな香りを楽しむこともできるように、ハーブ類を植える。

【植物を植える時のポイント(配置)】

- ・同時期に見頃を迎える植物同士が、隣合せにならないように配置する。
- ・等間隔植えにならないよう、まとまりを持たせて植える。

【イメージ】





①講座前

公園の裏口に新たに造られた花壇。

子どもたちにも身近に感じてもらえるように、明るい色の季節の花苗（一年草）や香りのあるハーブ類を植えつつ、ローメンテナンスで楽しむことができる宿根草を取り入れた花壇にしています。



②事前準備

スコップで耕しながら、雑草の根や小石等を取り除いていきます。



③植物の説明

準備された植物の名前や特徴の説明を行い、情報を共有しました。（植物の詳細は別紙）



④ 植物配置と植え込み作業

最初に、花壇のメインツリーとなるサルスベリ（低木種）と可愛らしい花を咲かせるエリカを配置します。



地面を這うようにして成長する這性ローズマリーは、花壇の縁に寄り添うように配置しましょう。花壇の枠から所々植物の枝葉が出るように植えると、ふんわりと動きのある花壇になります。



小さな鉢の植物は1ポットずつ散りばめるのではなく、同じ種類の植物を2～3ポットひとかたまりで配置していきましょう。そうすることでボリュームが出て、ほかの植物に埋もれることがなくなります。



配置が決まったら、植えていきます。
ポットから取り出した時に根が回ってしまっているものは、軽くほぐしてから植え付けましょう。



根鉢が土から出てしまったり（浅植え）、深く植えすぎたりしないように注意します。
植え付ける際には手で株元をしっかりと押さえ、周囲の土も一緒に均していくと、浅植えや深植えに気づくことができます。
堆肥（はまっ子ユーキ）を混ぜながら植え込みます。



最後にマルチングするように堆肥（はまっ子ユーキ）を全体へ被せていきます。この時、せっかく植えた植物が深植えになってしまわないように、改めて手で均しながら行います。



⑤水やり

植え付けた直後に、株元へしっかりと水やりをします。

雨のように上からシャワーするだけでは土の表面だけが湿っていて地中まで水が浸透していない場合もあります。

時間をかけてじっくりと行いましょう。

水圧が強すぎる場合は、ホースを折るようにして握りながら調節してみましょう。



⑥完成

公園の裏口に明るい色の季節の花が目を引き花壇が完成しました。

ローズマリーの良い香りも気分を和ませてくれます。

宿根草が大きく育ち、銅葉サルスベリの花が咲くのが楽しみです。

■使用植物

中低木、宿根草

	<p>サルスベリ銅葉 黒葉が特徴のサルスベリです。耐寒性や病気にも強く、育てやすい品種です。落葉時期に剪定を行い、管理しやすい樹高で育てます。日当たりの良い場所を好み、水やりはよほど乾かない限り必要ありません。</p>
	<p>ジャノメエリカ 小さな可愛らしい花がびっしりと咲きます。日当たりと風通しの良い場所を好みます。根付くまではしっかりと水やりをしましょう。花後に樹形を整えるように剪定しましょう。</p>
	<p>ルドベキア タカオ 花は小さいですが、たくさんの花を咲かせます。耐寒性や耐暑性が高く、比較的短命の多年草ですが、こぼれ種で増えていきます。日当たりと水はけの良い場所を好みます。</p>
	<p>ダリア 人目を惹く豪華な花を咲かせます。花首が折れそうな場合は支柱を立ててあげましょう。冬は球根が凍らないようにマルチングをするか、掘り上げて乾燥させて保管しましょう。球根の植付は気温が 20℃くらいになる季節が良いでしょう。</p>
	<p>カレックス ブロンズ色で葉先がカールする品種です。株が大きくなり過ぎた場合は、3月上旬に地際で刈りこむと4月から新しい葉が勢いよく伸びてきます。</p>

	<p>オレガノ ケントビューティー 花のように見えるものはハウと呼ばれるもので、そのハウの間から小さな可愛らしいピンクの花が咲きます。冬にバッサリと切り戻しても地中の根は生きているので、春に再び元気に成長します。切った葉はドライフラワーとしても楽しむことができます。</p>
	<p>ローズマリー 這性 地面を這うようにして成長するタイプのローズマリーです。冬に優しいブルーの花を咲かせます。株が大きくなりすぎないように、適宜カットしてあげましょう。</p>
	<p>ヒューケラ 常緑性でほとんど手入れは必要ありません。耐陰性があり、シェードガーデンなどにも活躍します。カラーバリエーションも豊富で、花壇や寄せ植えにはとても便利な植物です。</p>
	<p>ペンタス 初夏から秋まで長い間花を咲かせてくれます。花後は切り戻すと次の花をどんどん咲かせてくれます。日当たりと水はけの良い場所を好みます。</p>
	<p>球根ベゴニア 夏の高温多湿を嫌い、気温が下がる秋に大輪の花を見事に咲かせます。冬に株が凍ると枯れてしまいます。地上部が枯れた後は、凍る前に球根を掘り上げて乾燥させて保管し、春に植えてあげると初夏に再び花を咲かせます。</p>